鳴り砂

2-094 号（通巻 273 号）2018. 5. 20.

発行●みやぎ脱原発・風の会

〈連絡先〉〒980-0811
仙台市青葉区一番町 4－1－3
仙台市市民活動サポートセンター内LC No.76
電話＆FAX　022－３５６－７０９２（須田）
http://miyagi-kazenokai.com/

《郵便振替口座》02220－3－49486
会費●3000 円　賛同会費●1000 円／年

～～「女川原発再稼働の是非をみんなで決める県民投票を実現する会」 を設立～～
「原発」県民投票条例の制定を求める署名集めの協力者（受任者）を募集しています！

４月 14 日（土）仙台市シルバーセンターにて、「女川原発再稼働の是非をみんなで決める県民投票を実現する会（略称：みんなで決める会）」の第１回賛同者会議が開催されました。様々な集会やイベントが重なった日でしたが、約 70 人の方々が集まってくださいました。

プログラムは、まず始めに篠原弘典さんより「女川原発再稼働を巡る情勢について」話されました。その後、みんなで決める会代表の多々良哲さんより「県民投票条例制定運動の立ち上げ」が提起されました。続けて、菅原晃悦さんより「住民直接請求の法定署名の実際について」詳しい資料と法定署名の見本を使った説明があり、中嶋廉さんからは「泉市条例制定運動の事例紹介」と題してご自身の関わられた事例の紹介がありました。

みやぎ脱原発・風の会　公開学習会 vol.12

本邦初！？　完全オリジナル！

事故初期の運転操作で　福島原発事故は防げた！？

講師□石川徳春さん（仙台原子力問題研究グループ）
日時□6 月 2 日（土）18 時 30 分～20 時 30 分
資料代□500 円（＊『検証パンフ』　ご持参の方は無料！）
会場□仙台市市民活動サポートセンター4 階研修室 5（青葉区一番町 4-1-3）
主催□みやぎ脱原発・風の会　（問合せ 090-8819-9920／メール hag07314@nifty.ne.jp）

宮城県において、「原発」県民投票条例の制定を求めて署名集めをするという取り組みは初めてのことです。「女川原発再稼働」は、私たちの生命・暮らし、こども達の未来に関わる重大な問題です。この問題を宮城県（知事）にお任せするのではなく、県民一人ひとりが当事者として考え、県民全体の意思＝「県民投票」で決定したいと考えます。この日、私達はお任せ民主主義から脱却し、自分達のことは自分達で考えて自分達で決める「県民の主権者意識」を掘り起こす、「宮城の民主主義を育てる運動」がスタートしたのです！

プログラム最後の質疑応答と意見交換では、皆様から次々と手が上がり、「著名人に賛同してもらったらどうか？」「宣伝方法の具体的な方法について」「保管方法」「法定署名の書き方」「運動の広め方」「何歳から署名可能か？」などが出され、熱気が会場を包んでいきました。出されたご意見は、バージョンアップした説明書の Q&A に盛り込まれるなどして、運動に活かされています。皆様のご協力に感謝します。

◆県民投票条例の制定を求める「直接請求」運動を始めよう！

＜住民直接請求によって県民投票条例が制定されるまでの流れ＞

①県民投票を実現したい有権者を代表する「請求代表者」が、条例案や請求要旨等を添えて、県知事に代表者証明書の交付を申請し、交付を受けます。

②条例の制定を直接請求するのに必要な法定署名の数は、有権者の 1/50（宮城県の場合は約 4 万筆）です。これを 2 カ月という期限内に集めます。

③選管による署名簿の審査を経て、有効な署名が有権者の 1/50 を満たしていれば、署名簿を添えて、知事に条例制定を本請求します。

④知事は 20 日以内に県議会を招集し、自分の意見書を付けて、条例案を県議会に付議しなければなりません。

⑤県議会で条例案が可決されれば、「原発」宮城県民投票が実現します。

◆「法定署名」の大きな特徴（制約）

①受任者が署名をしてもらえるのは、受任者と同じ市区町村に住んでいる有権者だけです。

②法定署名は、署名日、氏名、住所、生年月日を自書していただき、押印（認め印でよい）してもらうことが必要です。これらのいずれかに不備があれば無効となってしまいます。

◆法定署名活動の「成功の鍵」

署名が少なければ宮城県民は女川原発に関心がないと受け止められます。できるだけ多くの県民に大切な署名が行われていることを伝え、一人でも多く署名していただくことが大切です。前述の制約を踏まえた一番効率のよい方法は、「家族親族やご近所など親しい間柄の人たちから、無効にならないよう落ち着いて署名や押印をしてもらうこと。その署名を集める人がたくさんいること」です。あなたが受任者になってください。そしてまわりの人たちに「家族の分だけでもＯＫ」と、受任者になることをお勧めしてください。その積み重ねがこの直接請求運動を成功させる鍵となります。

（みんなで決める会　鈴木智子）

みんなで決めよう！

女川原発再稼働YES or NO

～「原発」県民投票条例の制定を求める住民直接請求運動の成功へ向けて～

第2回賛同者会議 ご案内

日時□2018 年 6 月 17 日（日）13：30～15：30

会場□日立システムズホール
（青年文化センター）交流ホール
（仙台市青葉区旭ヶ丘 3-27-5）
（地下鉄南北線「旭ヶ丘駅」下車徒歩 3 分）

［内容］① 「今年前半の受任者事前登録運動で勝負を決する」運動方針の確認
② 「署名集めの手引き」や署名簿などの運動ツールについて
③ 県内各地で取り組みが始まった運動の交流

女川原発再稼働の是非をみんなで決める
県民投票を実現する会
（略称：みんなで決める会）
〒980-0804 仙台市青葉区大町 2 丁目 5-10
御譜代町ビル 306 号室
携帯：080-1673-8391（多々良）
FAX：022-215-3120
メール：kenmingakimeru@gmail.com
ブログ：
http://miyagiwind.cocolog-nifty.com/miyagi_kenmintohyo/
Facebook：https://www.facebook.com/
女川原発再稼働の是非をみんなで決める
県民投票を実現する会-2041179962797875/

3.25 さよなら原発！2018 in みやぎ

遠目からみても賑やかな景色

～福島事故から７年 STOP！ 女川原発再稼働

集会のオープニングは、福島県二本松市在住の関久雄さんの「原発いらない　命が大事」という歌である。関さんは、佐渡に「へっついの家」を作って子どもたちを保養させるという活動に取り組んでいる。また、ご自身の家族も米沢市に自主避難しているが、現在住んでいる雇用促進住宅からの立ち退き訴訟を闘っている。いわば、東電１F 事故の被害者としての〈活動〉と〈闘い〉の象徴的な存在である。

主催者代表の開会宣言と東日本大震災で亡くなられた人たちへの黙祷の後に、合唱団「ふきのとう」によるコーラスが披露された。

スピーチをされる登壇者は、７人。初めは、ゲストスピーカーである関久雄さん、続いて女川原発再稼働反対を現地で戦い続けている女川町議の阿部美紀子さん､「放射能から子どもたちを守る栗原ネットワーク」の本田さん､「放射能汚染廃棄物『一斉焼却』に反対する宮城県民連絡会」の仙南での焼却に反対する抗議アピールを読み上げる広幡さん､「女川原発 UPZ 住民の会」代表の勝又治子さん､「女川原発再稼働の是非をみんなで決める県民投票を実現する会（仮称）」の多々良哲さん、「脱原発をめざす宮城県議の会」事務局長の岸田清実さんが、それぞれの地域、組織での取り組みの報告や再稼働反対の訴えを次々と語られた。

集会は､「国分町三丁目社中」によるちんどんパフォーマンスで元気よく賑やかに締めくくられた。派手な衣装で登場した「国分町三丁目社中」のリーダーは､仙台市議会議員のひぐちのりこさんで、脱原発への口上を朗々と述べあげられた。

集会も終わり、350 人の集会参加者のうち 220 人がデモに出発する準備中に､金デモ常連のコーラーによるコールの練習も行われた。

いつもの金デモでは 50 人ほどの列の写真を撮っている老骨のカメラマンには、予想通り苦難の道行きが始まった。最初の信号で集団は２グループに分断された。次の信号で３グループに分断された。

次の集団を待つ間に先頭集団はどんどん進んでしまう。最後の集団を撮り終えて、先頭集団に追いつくのはなかなか大変なのである。そこで思いついたのは、先頭から写し始めたら私が後方に急ぎ足で戻りながら撮影するのである。足は疲れるが時間は節約できる。先頭に戻るとき、駆け足を速足で済ませることができる。まあ。疲れることではどちらも同じだが……。

先頭を賑やかなちんどんグループが行くことだけでも人目を十分に引くのだが､今日のために｢原発いらない！　女川原発を廃炉に！」という幟旗を何本も作ってのデモなので、遠目からみても賑やかな景色に見える。快晴の空の青に、幟旗の明るいブルーが呼応している。コールも「軽やかにリズムカルに」という呼びかけ通りに若いコーラーの声が一番町を響き渡っていく。

コールの声に急き立てられるように、私は私で先頭集団を追いかける（へろへろになって……）。少しならず汗ばんできた。

（小野寺秀也さんのブログ
「山行・水行・書筐」より抜粋）
https://plaza.rakuten.co.jp/kawamaecho/diary/201803250000/

4･22「放射能の拡散ストップを求める宮城県民集会」

堕落してしまった地方自治の姿

8000Bq/kg 以下の放射能汚染廃棄物の処理問題は、2016 年 11 月に村井知事が一斉焼却を提案したことで始まった。しかし、県内各地域の反対運動の盛り上がりによって方針転換を余儀なくされ、代って打ち出されたのが圏域毎の焼却であった。これに応えるかたちで、仙南地域広域行政組合は 2018 年 2 月の理事会で 3 月からの試験焼却開始を決定し、3 月 20 日には県内トップを切って試験焼却を開始してしまった。この様な状況の中で、今回の「放射能の拡散ストップを求める宮城県民集会」は開催された（主催　放射能汚染廃棄物「一斉焼却」に反対する宮城県民連絡会）。

会場となった東京エレクトロンホール（宮城県民会館）601 号室には、県内各地から約 80 名余りが集まった。集会では初めに賀屋共同代表が挨拶し、中嶋共同代表が基調報告で被ばくの最小化が基本原則で、隔離保管を求め、「地方自治の力で無法を正そう」と訴えた。また今迄の活動により村井知事の一斉焼却を阻止した成果などが報告された。続いて、各圏域で反対運動を続けて来た団体からの活動報告があった。集会後は、羽生結弦選手の凱旋パレードの余韻の残る街に出て、「放射能拡散防止」「焼却反対」を市民に訴えた。

この集会では、私自身「放射能汚染廃棄物の焼却に反対する仙南の会」として報告を行ったが、試験焼却開始を止められなかった事は大変悔しい思いであった。その一方で、反対意見書や質問書を提出するたびに見えて来たのは、住民とは向き合わず、上の方ばかり見ている堕落してしまった地方自治の姿だった。

今、国会では森友・加計問題をはじめとする、官僚の不正・忖度が次々と明るみに出て、国民の怒りを買っているが、この焼却問題も、各首長の知事への忖度にほかならない。本来地方自治体は県から独立した存在で、首長は住民の健康と安全を守るのが最大の責務である。それにもかかわらず、住民の不安には少しも耳を傾けず、村井知事の意向ばかりを斟酌する首長に成り下がってしまった。焼却を進める口実に保管農家の苦悩を言うが、もし本当に保管農家の事をおもんばかっていたなら、7 年も待たせず、自らの手で問題解決に乗り出すべきであったろう。

今回の汚染廃棄物焼却問題は、図らずも地方自治の実態を改めてあからさまにしたと言える。我々の活動は放射能の拡散防止ばかりではなく、住民のためには国・県とも抗う気骨ある政治家を育てる活動でもある。

（「仙南の会」事務局　太斎）

最近の気になる動き　76

「仙南クリーンセンターでの試験焼却開始」に想う

村井知事肝入りの放射性廃棄物焼却試験のトップを切って、角田市の仙南クリーンセンター（仙南地域広域行政事務組合）で「ほだ木」の焼却が 3.20 に始まりました。

＜3.20 朝日＞によれば、チップ状に粉砕された「ほだ木」を積んだトラックの側面 1 m での空間放射線量は 0.04 ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ／時（μSv/h）だったとのこと。トラック荷台（鋼板）による遮へい効果も無視できないはずですが、それはさておき、筆者が以前の『鳴り砂』で福島原発

事故による汚染（減衰）の考察に使用したエクセル計算で上記空間線量を“再現”してみました。

事故時にはセシウム 137 と同 134 がほぼ同量「１：１」放出されたとすると、７年経過後の現在の比率は「９：１」になっています（両者の合計量は放出時・汚染時は約２倍、200Bq/kg 程度だったと推計されます)。「ほだ木」の比重を 0.4 とすると、100Bq/kg＜3.21 朝日で「100Bq/kg 以下のほだ木」を５日間毎日１トン焼却＝搬入とのことなので、トラック１台で 100kBq/t とすれば＞の汚染は 250kBq/㎥ということになります。仮にそれを厚さ 25cm＜3.20 朝日のトラックの写真を見ると、その程度の厚さに積まれていました＞に敷き詰めると表面積は２m四方の４㎡となるため､約 60 kBq/㎡です。すると､「Ｃs137：Ｃs134」＝「54 kBq/㎡：6 kBq/㎡」ということで、Ｃs137 の「0.0779 （μSv/h)/(MBq/㎡)」とＣs134 の「0.2110」の換算係数を使うと、Ｃs137 による空間線量は「0.0042」、Ｃs134 は「0.0013」で、計「0.0055 μSv/h」となりました。また、横方向からの測定ということで、表面積を 0.25m×２m＝0.5 ㎡とすると、約 500 kBq/㎡ということになり、計「0.0456μSv/h」となりました。ナルホド、それで上記測定値となったのでしょうか。

ただし、ここで問題にしたいのは、上記“再現”計算の当否ではなく､測定方法（計測地点）によって、トラック荷台の空間線量の測定値ですら大きく異なる可能性があるということです。組合業務課長は「今後も敷地境界の空間線量、放射性セシウム濃度などの分析をしていく」と述べていますが＜3.21 朝日＞、それらの測定でどのような異常を検出できるのか、キチンと明らかにすべきです。例えば、当面の試験焼却対象である 100Bq/kg(ほだ木)や 400Bq/kg(堆肥)の混焼中に、集塵フィルターなどが故障（セシウム捕捉性能が低下）した場合、直ちに異常を検知できるのでしょうか（そもそも一般ごみと混ぜて 200 分の１（ほだ木：3.21 朝日）に「希釈」すること自体、異常検出を“意図的に”困難にしていると思いますが)。また、焼却灰はその日のうちに白石市の仙南最終処分場に埋められたようですが、その灰（薬剤で固化処理した分だけ“さらに薄まった”と思いますが）の測定値はいくらだったのでしょうか（何 Bq/kg で何μSv/h？)。「セシウム収支」に大きな異常はなかったのでしょうか。また､「生じるはずの不足」はフィルター捕捉分・施設内残留分として説明がつくのでしょうか、それとも‘環境への放出分’もあったのでしょうか。

それはさておき、放射能汚染は希釈・拡散させないことが第一で、できる限り濃縮して、最後は「製造者」の東電に“返却”することが原則だと思います（毒物を撒き散らしておいて、所有権を放棄した“無主物”だから責任は取らないということは許されません：3.15ＥＴＶ特集で、新築の家の土台が汚染されていたことが判明した方が、東電窓口から「浮遊物だから」と賠償を断わられたという話がありましたが、おそらく「無主物ですから」と言われたのではないでしょうか。そのような“専門用語”を使う窓口対応にも東電の“傲慢さ”が表われていると思いました。閑話休題)。それを、焼却段階で 0.5%(0.5Bq/kg)に薄めることが“正々堂々”と許されるなら、最初からほだ木を少しずつ（200 分の１）一般ごみに混ぜて「家庭ごみ」として排出することが許されることになり、さらには 8000Bq/kg 以上のものだって…、となるのは明らかです。

その意味で、これまで汚染廃棄物をキチンと保管し続けてきた農家などの方々に敬意を表すると共に、東電・国は（東電所有物であるセシウムの絶対量に応じた)『保管料』を支払うべきだと思います。そうすれば、いつまでもセシウム（汚染廃棄物）を“外部”に放置しておくより、東電・国を挙げて、(セシウムボールなどとして環境中に飛散・散逸しないように）技術の粋を尽した適切な濃縮施設（専用焼却施設）でコンパクトな灰などの形でセシウムを回収し、東電敷地内で保管する方が“安上がり”と考えるようになるのではないでしょうか｡また､個々の農家に代わり適切にセシウムを濃縮（焼却）する自治体には、保管料の権利が農家から移転するわけで、最終処分場に焼却灰（灰の量は少ないほど輸送も保管も楽なため、一般ごみとの混焼など考えられなくなります。また、鋤き込み等は保管でないため、財産放棄として許されなくなります）を埋め立てれば、セシウムが完全に減衰するまで（金額は毎年減少しますが）安定的な保管料収入が見込めます。

以上は荒唐無稽な話でしかありませんが、何か抜本的な措置を講じなければ汚染廃棄物問題の根本的解決は見込めず、東電・国の責任放棄（や自治体の肩代わり）が続くだけです。これ以上の放射能の拡散・希釈は止めるべきです。

＜2018.3.21 記＞

（仙台原子力問題研究グループＩ）

「市民が問う！　仙台市は女川原発とどう向き合うのか？」 学習討論会報告

仙台市は女川原発に責任がある！

４月 15 日、仙台市戦災復興記念館で「市民が問う！　仙台市は女川原発とどう向き合うのか？」と題した討論学習会（主催　脱原発仙台市民会議）が、約 50 名の参加で開催された。

これまで女川原発といえば、宮城県か女川町・石巻市が交渉相手だったことが多かったが、福島原発事故以降は状況が激変した。この間「脱原発仙台市民会議」は仙台市との交渉を続けてきたが、それを踏まえ、「仙台市政と女川原発」というテーマで、郡市長を誕生させたパワーを引継ぎ、市民の安全を優先する原発政策とは何か、について討論することを狙いとして開催された。

まずは、「大株主仙台市に求めること」と題して、「脱原発東北電力株主の会」代表の篠原弘典さんがお話しされた。脱原発仙台市民会議の共同代表の一人でもある篠原さんは、主に①「脱原発運動」が電力会社の株主として取り組むことになった経緯　②これまでの株主運動の成果と壁　③今年の株主総会へむけて　④仙台市に望むこと　について語られた。

まず、①について、いまや全国の電力会社で取り組まれている株主運動は、一番初めは九州電力で、しかもそれは水俣病問題でのチッソの株主運動から学んだものであることが紹介された。なぜ脱原発運動が、ある意味「敵対」する電力会社の株主になるのかといえば、一つには情報を出させる、という目的があったとのことだ。当時なかなか電力会社は情報をださず（今も十分ではないが）、たとえば原発の「原子炉設置許可申請書」（これは篠原さんいわく「教科書みたいなもの」）を出させるために、当時国会議員であった岡崎トミ子さんが国政調査権を使ってやっと出させた、ということもあったくらいだという。

②については、東北電力の株主総会には 1990 年に初参加し、92 年に初めて株主提案、そして 96 年から毎年脱原発株主提案をして今年で 23 年連続の株主提案になるとのことだ。これまで多くの提案をして、その全てが総会で否決されてきたが、実は総会では否決されたものの、その後実現されたことも多い。たとえば「青森・宮城・福島３県の県議会議長経験者を取締役に据える慣習をやめる」「巻原発計画の白紙撤回」「役員報酬を開示する」「浪江・小高原発の白紙撤回」などなど…。また、提案以外にも「事前質問」として多くの質問をだすことができ、総会の場では十分な時間が取れないため、総会後に時間をとって回答の場を設けるのだが、質問が多岐にわたるため、こちら側が数人に対し、東北電力は各部署から約 40 人も参加して回答するなど、株主でなければ難しい機会を得られることも紹介した（回答の内容は十分とはいえないものの）。

③については、くわしくは『鳴り砂』今号の記事（あるいはＨＰ）に譲るが、2009 年株式電子化にともなって手続きが煩雑になると共に、特に最近、「会社法」を改悪し提案数を制限することなども検討されているとのことだ。

④仙台市は昨年市民パワーで郡市長を誕生させたので、まあ大阪市・京都市のように自分で株主提案はできなくとも、少なくとも「株主の会」の提案に反対せず、最悪でも「白紙」として態度表明してほしいと、ひかえめ？に希望を語った。

次に第２報告として、事務局長の広幡文さんから「仙台市の防災・避難計画」について話された。

広幡さんはこの間、先頭にたって仙台市と交渉し、その成果やまた栗原などへの視察の報告が語られた。その中で①仙台市は 30ｋｍ圏ではないが、防災計画に原子力防災の項目も入れた　②それは、「原子力規制庁の指針」さらに「宮城県のガイドライン」を受けてのものだが、そもそもそれらに大いに問題がある　③仙台市の防災計画には「ヨウ素剤の配布・服用計画」が策定されていない、避難基準は 500μSv/h とべらぼうに高い　④仙台市は東松島市、石巻市から住民を受け入れる計画（77 か所に 64,000 人）だが、その運営は避難元自治体（東松島市、石巻市）が行うというものだ。また、東松島市の計画では「原則自家用車」となっているが、実際「長命ケ丘市民センター」は 363 名の受入れ計画に対し駐車スペースは 15 台。石巻市からの避難所のひとつである仙台市市民活動サポートセンターに至っては

423 名の受入れに対し、駐車場ゼロになっている⑤一方、福島事故による廃棄物処理に関して、まず仙台市で除染した学校は 12 校に上り、その校名が交渉の結果公開された。⑥また現在問題になっている汚染廃棄物に関して、栗原で視察したところ、人が近づかないように厳重に管理されていた。ということなどが報告された。

以上２つの報告をふまえ、活発な意見交換が行われたが、その中では、東松島市民の会の山下さんから「地域を区切って、各地で防災計画についての学習会を行っている」、また県会議員の中嶋さんから「議会でもこの問題をとりあげ、バスや運転手が確保できないのではないか、また運転手に原発事故の起きている方向に２回以上も向かわせていいのか、など追及している」などの報告があった。また、「株主総会に参加するにはどうすればいいのか」「500μSvまで避難するな、というとんでもない避難計画ということを訴えるべき」「送電網のことも取上げてほしい」「石巻の施設で働いているが、防災について昨年から取り組み始めた」とのフロア発言もあり、とてもタイムリーで有意義な会となった。

（脱原発仙台市民会議　舘脇）

「再稼働阻止全国ネットワーク」全国相談会に参加して

再稼働をストップする闘いを結んで

４月 15 日・16 日と両日に渡り、「再稼働阻止全国ネットワーク（以下、阻止ネット）」主催の全国相談会に参加してきました。阻止ネットのリーフレットによれば、「各地の再稼働をストップする闘いを結んで、原発ゼロ社会を実現する」という目的で 2012 年 11 月 10 に結成したネットワークとのこと。東京の『たんぽぽ舎』という脱原発団体のメンバーが阻止ネットの中心メンバーということもあり、相談会はたんぽぽ舎の会議室で行われました。参加者の顔ぶれは、原発立地各県の脱原発運動の団体代表の方に加え、たんぽぽ舎ボランティアスタッフの関東在住の皆さんも参加されました。

15 日は、阻止ネットの中心メンバーのおひとりの木村雅英さんの発言から始まり、これまでの原発推進の過程を示しながらエネ庁や規制委員会の矛盾・問題点を取り上げました。次にたんぽぽ舎の学習会でお馴染の山崎久隆さんが「核のゴミ問題」と題して講演され、東北電力の日本原電への『債務保証』に対し、東電の日本原電への『支援』との違いや、むつ中間貯蔵施設や六ヶ所再処理工場の問題点にも触れられ、翌日報告された青森から参加の中道雅史さんの報告内容とも関連し、関電や東電の姿勢が青森の抱える問題と密接に関わっていることを改めて実感しました。『お付き合い断層』『高レベル放射能廃液』といった用語も、初めて知りました。

その後、稼働している各原発の立地県からの報告が続き、①鹿児島からは核のゴミ受け入れ拒否自治体キャラバンの取り組みや、自民党議員を主催者代表として薩摩川内市で開催した城南信用金庫相談役の吉原毅氏講演会で 400 名集めたこと、②愛媛からは運動の中心メンバーを支える体制作りの実態の他に、加計学園問題で愛媛県知事がメモの存在を示したことに関連し、今年は知事選が有ること、③佐賀からは議員等に放射能の危険性を記した資料配布の取り組みの紹介、④大飯原発反対運動の方からは馴染みの記者に手紙を書く、

独りデモなどのアイデア等、様々な報告がありました。

東海第二の再稼働には老朽化や避難計画等様々な問題点が指摘されていることに加えて、同じ関東圏ということもあって、たんぽぽ舎スタッフや「反原発自治体議員・市民連盟」所属の方から、これまでの取り組みの報告や今後の運動の予定の説明もあり、東海第二の再稼働阻止に向けて全力で取り組む姿勢を感じました。

相談会初日は、以上の内容で 13 時 30 分から始まり、17 時過ぎに軽く夕食を頂く休憩時間が設けられ、20 時 20 分まで続きました。その後、近くの中華料理屋に場所を移し、交流会が行なわれました。

翌 16 日は 9 時開始で、その他の各原発立地県から参加の方々から、取り組みの報告が有りました。毎年各地からの報告は日本列島の北から始まるのですが、北海道の代表は不参加だった為、一番目の青森からの報告の次が私の番となりました。自分の役目が終わったこともあって、中道さんの話以外は、各地の取り組みに耳を傾けることが出来ました。

多くの報告資料が渡されたため、報告者と該当する資料を探し出すのが追い付かず、要領よく資料を把握・整理出来なかったのが私の今回の反省点のひとつです。

印象に残った各地の報告を簡単に紹介すると、福島からはモニタリングポストの撤去問題、新潟からは米山知事を新潟県民だけでは支えきれないので他県の皆さんへの応援要請がありました。その時は誰も、米山知事が辞任されるとは思っていませんでした。富山からは、体力が弱い北陸電力が他の電力会社に吸収されるのではないかとの懸念や水力発電への評価、静岡からは地元で発行している情報冊子の紹介、島根からは原発担当記者との飲み会、鹿児島からは、槌田敦氏提唱の「川内原発民間規制委員会・かごしま」の取り組みとして、具体的な代替案による九州電力への勧告等、各地からの報告が昼まで続き、相談会のスケジュールは終わりました。

昼食後は、日本原電本店前に行き、要請書・申入書を読み上げ、抗議行動を行いました。日本原電は、電力会社のように建物の外側に社名を記載した看板は無く、表通りに面していても見過ごしてしまいそうな黒っぽい建物で、複数階を借りているキーテナントにもかかわらず、人目を避けているような印象さえ感じられました。

以上、全国相談会の報告とさせて頂きます。

（サ）

今年は「脱原発会社宣言」等の株主提案
23 年連続、株主 214 名・255,600 株で

脱原発東北電力株主の会は、下記の 6 つの「株主提案議案」を、3 月 31 日、昨年の提案株主と、昨年夏に議決権行使書を閲覧・謄写して賛同を確認した全国の株主、約 900 名に郵送しました。

今回も、株主さんには、「合意書」返送だけでなく、証券会社等に「個別株主通知申出書」を提出し「受付票」を入手・返送する手続きをして頂き、新しい株主さんも 43 名ほど増え、227 名の方から賛同を頂き、電力による「資格審査」の結果、最終的に 214 名・255,600 株の共同提案となりました（昨年は 198 名・259,000 株）。

4 月 27 日午後 1 時、東北電力本社で株式課に「株主提案議案」「株主提案権行使請求書」等を提出・受理され、午後 2 時から県庁で記者会見を行い（6 名参加）、『河北新報』に掲載されました。

「脱原発会社宣言」～東日本大震災から 7 年、女川・東通の 4 基の原発が全て止まったままでも、電気の供給に支障はありませんでしたが、動いていない原発のために昨年度も維持費（原子力発電費）940 億 7,200 万円を計上しています。電力自由化でますます厳しい経営環境が進む現在、脱原発を進め原発維持費を削減することは必要ですし、原発事故による被災地を抱える管内において、合意形成が困難な原発再稼働に固執することなく、日本の電力会社初の「脱原発会社宣言」を行うことで株主および消費者の信頼を得ることは経営上の大きなメリットともなります。

「東通原発の廃止」～原子力規制委員会で東通原発の適合性審査を受けていますが、施設直下に活断層があるために新規制基準に合格することが

困難になっています。つい最近も原子炉を冷やす海水の取水口直下を走る「m-a 断層」に活動性がないと立証することが困難と判断して、取水口を現在地から百数十メートル南側に新設することになりました。女川原発と東通原発の安全対策工事に３千数百億円費やすと公表していますが、無用な出費であり、再稼働を断念して廃炉の事業を早速にも始めるべきです。

「廃炉計画の策定」～福島原発事故以来、現在全国で 17 基の原発の廃炉が決定しており､「大廃炉時代」に突入しました。女川原発１号機は運転開始から 34 年が経過しており、廃炉開始までの時間的余裕はありません。原発解体など廃炉作業で出る金属やコンクリート等の「低レベル放射性廃棄物」は、電力各社が責任を持って処分することになっており、処分地の確保が必要となってきますが、処分地の選定は時間を要し、早急に着手することが必要です。また、廃炉技術の研究開発への準備がなされているのか疑問であり、速やかな廃炉に対応する体制整備の構築が迫られています。

「送電線容量の有効活用」～「空き容量ゼロとして、太陽光や風力などの発電設備が新たに繋げなくなっている東北地方の 14 基幹送電線が、実際は 2%～18.2%しか使われていない」という研究者の分析が大きく報じられました。原発などの全設備がフル稼働する想定で算出した｢空き容量｣と、実潮流ベースの送電線利用率が大きくかけ離れていることが明るみに出たのです｡｢再稼働の目途もない原発が再生エネの導入拡大を阻んでいる｣ことは明らかです。まず実際の空き容量に関する情報を適切に開示し､欧米などで普及している｢コネクト・アンド・マネージ｣（実際の発電状況を細かく見て、容量の「すきま」を活用することで送電量を増やす手法）を積極的に導入し、透明性・公平性・効率性の高い接続ルールに基づいて、再生エネ等の新規電源の接続を促進すべきです。

「再生可能エネルギー導入拡大計画の策定と実行」～今、世界では再生エネの普及が急速に進んでいます。2017 年の太陽光発電の設備容量は累計約 400 ギガワット､風力発電は累計約 540 ギガワットに達し、それぞれ 2010 年の 10 倍、2.5 倍に伸びました。コストの低下も著しく、国際エネルギー機関（IEA）によると、10 年と比べて太陽光発電は 70%､風力発電は 25%安くなりました。一方、世界の総発電量に占める原発の割合は 1990 年代をピークに下がり､今は１割程度にとどまっています。風力は 2015 年に、太陽光も 2017 年に、累計設備容量で、原子力を抜き去りました｡この世界の潮流に乗り遅れることなく、挑戦的な再生エネ導入拡大計画を作って着実に実行し、出来るだけ早期に再生エネ比率を 30%～40%とすべきです。

「日本原子力発電・日本原燃への出資及び債務保証は行わない」～日本原電は、保有する４基の原発のうち２基が廃炉作業中で２基は停止中､発電量ゼロにも関わらず、東北電力など５電力が年間１千億円以上の基本料を支払って生き延びているゾンビ企業。被災した東海第二原発の運転期限 40 年の 20 年延長を申請し、今年 11 月までに原子力規制委員会の審査に合格しなければならず､そのための安全対策工事費約 2,000 億円の借入れの債務保証を東北電力と東京電力に要請していますが、地元には再稼働反対の声もあり、債務保証等は行わない｡日本原燃の六ケ所再処理工場は、当初の 1997 年完成予定から 20 年以上過ぎた昨年 12 月、23 回目の完成予定の３年延期を行いました。建設費は既に 2 兆 2,000 億円を超え、「もんじゅ」も廃炉となり、プルトニウムの使い途もなくなり、核燃料サイクル事業は破綻しています。すぐに投資を中止すべきです。

今年の株主総会でも、上記の議案と、事前質問書を基に､「原発再稼働中止ー廃炉」を経営陣に迫って行きます。
（空）

「十文字チキンカンパニー」バイオマス発電所　見学報告

隠すものは何もありませんから

2016 年 4 月に家庭用電気が小売自由化となりましたが、皆さんはどこの会社から電気を購入していますか。宮城でも「みやぎ生協」「あいコープみやぎ」などが昨年秋に電気の小売りを始めたので、再生可能エネルギーで発電された電気を使いたい人にとって、購入先の選択肢がやっと増えてきたのではないかと思います。世界的にみれば、再生可能エネルギー（電気＋熱）の中で最も大きな割合を占めるのが、バイオマス（動植物から生まれた家畜排泄物、間伐材など）由来のエネルギーです。

さて、5 月 10 日に、岩手県軽米町の「十文字チキンカンパニー」のバイオマス発電所を、あいコープ脱原発委員会のメンバーとともに見学しました。バイオマス発電というと、発酵させてメタンガスを抽出し、発電するタイプを想像していましたが、この発電所は鶏糞を燃料とする火力発電所でした。

十文字チキンカンパニーは、岩手県北部で年間 5000 万羽の鶏を飼育し、加工した鶏肉を販売している会社です。「これまでは堆肥化してきたが、大量に発生する鶏糞（毎日 400 トン）をもっと有効に活用したい」という長年の課題を解決する目的とともに、東日本大震災や東電福島第一原発事故を経験して「私たちに貢献できることは何だろう」と考えて、バイオマス発電所の建設を決断したそうです。

2016 年 11 月に稼働したバイオマス発電所では、発電量 6250kW のうち、発電所内で使用する分を除いた 4800kW（約 1 万世帯分）の電気を、1kW あたり 17 円の固定価格で「パルシステムでんき」に販売しているとのことでした。

「隠すものは何もありませんから」と、発電所内を隅々まで見学させていただきましたが、臭気をそれほど感じることもありませんでした。発電所長を始め、現場の責任者、採用 2 年目の現場担当者など 5 名が同行して説明してくださいました。発電所は 24 時間体制で稼働しているため、職員が 3 名 2 交代で勤務し、トラブルに備えてディスプレイを監視している（写真 1）そうです。写真 2 のとおり、「巨大な鶏糞貯蔵風呂」のような燃料ピットから一度に 3 トンもの鶏糞をクレーンで持ち上げる様子は、まさに圧巻！でした。

その場で上がった「これが原発だったら、こんなに近くまで燃料に近づくことはできないよね。安全な燃料で電気が作られるってやっぱりいいね」という一緒に見学したメンバーの声には、とても共感できました。

苦労している点を伺うと、「燃料となる鶏糞は燃えやすく発電効率も高いが、管理に気を遣っている。異物（餌の袋や鶏舎のコンクリート）などが入っていることがある。含水率が多いと燃えにくくなるので、発酵熱で乾燥させるなどの前処理をしてから燃料ピットに投入している。また、2 か月に一度、一週間発電を止めて、ボイラー燃焼炉を清掃しているが、この作業が職員総出の重労働でとても大変。」との回答をいただいた。

「鶏糞のことは詳しくても、発電に関しては全員“素人”なので、安定稼働させるために試行錯誤していますよ。」と話をされた所長さん、そして前述の回答をしてくださった現場の方々は、困難の中にやりがいも感じていらっしゃるようでした。

発電所の建設に関わる費用（土地収得や発電所の建設費用など 65 億円）を回収するには、10

年弱かかる見込みとのことでしたが、燃料となる鶏糞は、発電所からおおむね 40 ㎞圏内のグループの農場から運び込まれるため、運搬コストは低く抑えられることに加え、安定稼働すれば売電収入が確実に得られるため、経営はいずれ黒字に転じることでしょう。

廃棄予定の鶏糞を燃料にし、燃やし終わった灰を肥料の原料として活用する仕組みは、無駄のない持続可能な取り組みだと思います（燃焼の際の熱の活用ができればさらに Good!）。このような発電方法による電気を販売する電力会社を選んで応援することによって、原発や石炭火力発電所のない社会を目指したいと、改めて思った見学でした。　（里山海子）

【編集雑記】

●東日本大震災の３年前の 2008 年３月、東北電力が、女川原発の敷地が水没する高さ 22.79 ㍍の津波想定をまとめていたことが、4 月 27 日、東京地裁で開かれた福島第一原発事故を巡る「東京電力３被告刑事裁判」（業務上過失致死傷罪で旧経営陣３人が強制起訴）第９回公判で開示された会議資料で判明した。

２008 年３月５日に、東電、東北電力、日本原電などが参加して開かれた「津波バックチェックに関する打合せ」の議事記録である。これによると、東北電力も、地震本部の長期評価（2002）の考え方に基づき、これまで発生した記録のない宮城県沖から福島県沖にまたがる領域で M8.5 の津波地震を想定、明治三陸沖地震（1896）のような津波地震が、もっと南で起きる可能性を検討していた。この場合、女川原発での津波高さは 18.16～22.79m と計算、女川（敷地高 14.8m）も水没すると予測されていた。

これまで東北電力は、過去に「大津波で敷地が水没する想定をしていた」事実を、事故後７年も隠していた。女川原発は、建設時に敷地を高くしていた？　から震災の津波にも耐えたと豪語しているが、たまたまのことで、実は一歩間違えば福島原発事故と同じことが起きていたかも知れない。（空）

今、女川では

女川町議会議員　阿部美紀子

その 17. 君死にたもふことなかれ

安倍政権は、憲法９条を変え、軍隊の持てる国、戦争のできる国にしようとしています。

あまり知られていませんが、太平洋戦争当時、女川には特殊潜航艇（回天）嵐部隊の基地があり、艦砲射撃を受けました。原子力発電所のある現在、自然災害だけでなく、テロやミサイルの脅威にいつも晒されています。

2000 年３月 22 日、女川の指ケ浜に自衛隊の訓練機が、７月４日には原発から数キロの光山山中に自衛隊機ブルーインパルスが墜落しています。ブルーインパルスの速度からすれば、数キロはほんの数秒の誤差で、福島原発以上の大惨事が起きていたかも知れません。

以前、「戦争に行きたくないという身勝手な考え」と発言した国会議員がいました。戦争に行きたくない、行かせたくないというのは、誰しもが思う、当然の気持ちです。

かつて、与謝野晶子は、戦争に出征した弟に向かって、

親は刃をにぎらせて
人を殺せとをしへしや
人を殺して死ねよとて
二十四までをそだてしや
：
君死にたもふことなかれ

と詠みました。

この詩が連綿として謡いつがれてきたのは、市井の人々のごくあたりまえの思いだったからではないでしょうか。そうした人々の思いに応え、平和を追求することこそ政治の役目です。

現安倍政権は、「森友学園」に見られるように、自己保身に走り、誠意のカケラさえ見えません。自分の都合のいいように、事実を曲解していく様は、実に見苦しく危険です。

安倍政権の憲法改悪は断じて許せるものではない！

（「スペース２１」第 105 号　2018 年４月より転載）

【インフォメーション】

［詳細はそれぞれの主催者に確認して下さい］

第 279 回～第 284 回
女川原発再稼働するな！
子供を守れ！汚染はいらない！みやぎ金曜デモ
in 仙台　（略称:脱原発みやぎ金曜デモ）

https://twitter.com/miyagi_no_nuke
http://twipla.jp/events/27716

日時□5 月 25 日（金）錦町公園
6 月 1 日（金）肴町公園
6 月 8 日（金）勾当台公園野外音楽堂
6 月 15 日（金）元鍛冶丁公園
6 月 22 日（金）勾当台公園野外音楽堂
6 月 29 日（金）勾当台公園野外音楽堂
（18 時 30 分集合、19 時デモ出発）
主催□みやぎ金曜デモの会（代表　西）
（090-8819-9920　電話は 20 時～22 時まで）
e-mail:miyagi.no.nuke@gmail.com

「電力小売り自由化の現状と私たちのくらし」
講師□浦井彰さん（エネシフみやぎ代表）
日時□5 月 26 日（土）13 時半～
会場□県労連会館 2F
〈参加費無料〉
主催□婦人民主クラブ宮城県支部協議会

「再生可能エネルギーを考える
ー福島原発事故から 7 年、丸森町筆甫の今ー」
日時□6 月 2 日（土）8 時半～16 時頃
参加費□3500 円（バス代・保険料含む）
主催□婦人民主クラブ
〈連絡先〉FAX 022-247-3020（奥山）

福島原発事故から7年
被害の実相と原発訴訟の到達点
～「生業を返せ、地域を返せ！」
福島原発訴訟の経験から～
講演□馬奈木厳太郎弁護士
（「生業を返せ、地域を返せ！」
福島原発訴訟弁護団事務局長）
日時□6 月 23 日（土）14 時～記念講演
15 時 30 分～総会
会場□青葉区中央市民センター第 2 会議室
（仙台市青葉区一番町 2 丁目 1 番 4 号）
資料代□500 円
主催□原発問題住民運動宮城県連絡センター
電話 022-265-2601（民医連）
FAX 022-263-8266

東北電力㈱ 第 94 回定時株主総会
日時□6 月 27 日（水）午前 10 時
会場□電力ビル 7 階電力ホール

大 MAGROCK VOL.11
日時□7 月 14 日（土）12 時～15 日（日）17 時
問合せ：PEACE LAND ☎ 090-8613-3269

第 11 回大間原発反対現地集会
日時□7 月 15 日（日）12 時～
会場□大間原発に反対する地主の会・所有地
主催□大間原発反対現地集会実行委員会
☎ 080-6041-5089 中道

■□2018 年会費振込みのお願い□■

《郵便振替口座》02220－3－49486
《口座名》みやぎ脱原発・風の会
会　　費●3000 円／年
賛同会費●1000 円／年

【もくじ】

●「女川原発再稼働の是非をみんなで決める県民投票を実現する会」を設立 ……1
●遠目からみても賑やかな景色 ……3
●堕落してしまった地方自治の姿 ……4
●「仙南クリーンセンターでの試験焼却開始」に想う ……4
●仙台市は女川原発に責任がある！ ……6
●再稼働をストップする闘いを結んで……7
●今年は 「脱原発会社宣言」 等の株主提案 ……8
●隠すものは何もありませんから ……10
●編集雑記 ……11
●今、女川では ……11
●インフォメーション ……12

【別冊もくじ】

●早くも「パンフ」の補充考察？ ……1
●福島原発事故は、適切な初期対応で軽減できた（防げた）？ ……6
●女川原発アラカルト ……9
●脱原発みやぎ金曜デモ ……11
●汚染廃棄物「試験焼却」をめぐる動き …11